

様式第1（第15条関係）

会 議 録

会議の名称	平成29年度第2回和泉市福祉でまちづくり委員会
開催日時	平成30年2月19日（月曜日）午後2時から午後4時
開催場所	和泉市立コミュニティセンター 4階視聴覚室
出席者 （敬称略）	<p><b>【委員】</b></p> <p>龍谷大学社会学部 講師 村田 智美</p> <p>和泉市町会連合会 副会長 園田 光明</p> <p>和泉市民生委員児童委員協議会 会長 一井 正好</p> <p>和泉市老人クラブ連合会 会長 門林 淳</p> <p>和泉市医師会 副会長 奥村 聡彦</p> <p>大阪府和泉保健所 企画調整課長 角田 龍哉</p> <p>公募市民 芦田 三雄</p>
議案等	地域福祉施策の推進に関する事
会議録の 作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
記録内容の 確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の議長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した構成員全員の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> その他（事務局にて確認）
審 議 内 容 （発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
	<p><b>【開会挨拶】</b></p> <p><b>【委嘱状交付】</b></p>

事務局

【出席者紹介】

【村田副会長 挨拶】

【事務局より説明】

はい、福祉総務課 井上でございます。

着座にて説明させていただきます。

失礼します。

私からは、議題①「第3次和泉市地域福祉計画における平成29年度地域福祉関連事業の進捗状況について」ご説明させていただきます。

資料1ページをご覧ください。

平成29年7月24日に開催しました第1回和泉市福祉でまちづくり委員会におきまして、防災とボランティアの周知啓発についてご審議いただきました。

防災に関連する地域福祉関連事業は、避難行動要支援者支援事業と市民防災啓発事業がございます。

災害が起きた際に地域住民や地域の団体がより連携できる体制を構築するに当たり、平常時からどのように活動することができるのかご審議いただきました。

第1回委員会では、避難行動要支援者同意台帳の活用方法とその活動の具体的な進め方について示してはどうかとご意見いただきました。

避難行動要支援者同意台帳の活用方法として、例えば、緑ヶ丘校区では校区で実施する防災訓練にて台帳を活用している例があります。

訓練時に各家庭が家にある白色タオルを門扉などに結び近隣に安否を知らせます。

自治会各班の班長が近隣の状況確認し、本部へ連絡。

本部にて台帳と照らし合わせ、安否確認ができていない世帯がないかを確認。

台帳に掲載されている方で安否確認できていない場合、地域の民生委員等が再訪問を行う流れになっています。

また、市民防災啓発事業については、現在56団体の自主防災組織がありますが、前年度と比べ10団体増えており、防災リーダー養成講座や出前講座にて自主防災組織の立ち上げを啓発していることと、防災についてメディアで取り上げられる機会が多く、地域の防災意識の高まりが団体数の増加に繋がったのではないかと思います。

続いて2ページをご覧ください。

ボランティア関連についてですが、第1回委員会ではボランティア活動において年齢等でより幅広い方々に活動の周知を行い、また参加してもらい、活動の活性化を図るためにはどのようなしたらよいかをご審議いただきました。

委員会での意見として広報の仕方が重要ではないか、特に市広報への掲載が重要ではないかのご意見をいただきました。

現状では、「ちょいず」に登録されている団体はその活動等を掲載しており、アイ・あいロビーに関連する事業も同様です。

また介護予防・日常生活支援総合事業では、おたがいさまサポーターとしてボランティアの登録をいただいておりますが、平成29年12月18日時点で128名のボランティア登録があります。

登録者の傾向として、高齢者の女性が多く、若い人は少ない状況でございます。今後は、若い人に登録して頂くため、桃山学院大学へ出向き、授業内で事業の説明等を行い、アピールしていく予定です。

事務局からの報告は以上です。

村田副委員長

議題①の説明が終わりました。

以前の第1回まちづくり委員会のことをうけての報告と思います。

何か質問等がありましたらどうぞ。

芦田委員

議題①の中で自主防災の組織が56団体に10増えたということですが全体的な自治会の数(町会)のうち普及率はどのくらいですか。

<p>オブザーバー (危機管理担当)</p>	<p>自主防災については町会連合会に加入している町会数が202団体あります。 自主防災組織に関しては町会連合会に加入していなくとも、マンション単位等でも自主防災組織としての立ち上げは可能となっております。 ですから組織の数がパーセンテージ（普及率）とイコールにはなりません、202団と56団体を比較しますと25%程度になります。 あくまでも地域の方々が「自分たちの街は自分たちで守るんだ」という意識を持っていただいて自主的に立ち上げる自主防災組織となっておりますので、先ほど話が出ました出前講座やイベントの際に自主防災立ち上げに係る補助等の啓発もしております。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>はい、解りました。 自主防災とか要支援者の対応を含めて考えると他の件では時間をかけて考えればよい部分もあるけれど、災害等があった時に即対応が必要とされる部分もあるので、このあたりを時間的に考えると優先的に、早く各町会の動きを推進していく、また促進するための仕組み作りや、自主防災活動の弱い地域への積極的な訪問等が必要と思います。その方法についてはどのようにお考えですか。</p>
<p>オブザーバー (危機管理担当)</p>	<p>先ほどもご説明しました通り地域の自主的な活動の延長線になっておりますので、校区長会議等で制度説明をさせて頂いております。 校区長、校区副会長から制度の説明を各町会にして頂いております。 意識があるところだからこそ出前講座等呼んで頂けます。 また、お声かけいただいた地域については自主防災組織の立ち上げが多め、お声かけのない地域は少なめな部分もありますので、このような啓発活動は必要だと思います。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>前回第1回目するときにも、防災のことでいろいろとご意見頂いたと聞いております。 いつ来るか解らない、常に備えておくということが求められますので日々の活</p>

<p>園田委員</p>	<p>動がとても重要だと思います。</p> <p>町会としては防災についてどのようにお考えでしょうか。</p> <p>自主防災については校区長会議でも出ているのですが、組織できる校区と組織できない校区があります。</p> <p>私が住んでいるのは山手の校区ですが、自主防災組織を作っても町会と同じ役員構成になってしまい、同じ人が2つも3つも役を持たないとできなくなってしまうため、自主防災等については町会単位、自治会単位で行っているのが現状です。特に自主防災組織を立ち上げなくても、町会自体がその役割をはたしています。山手はこのように町会の数も人的要素もあります。</p> <p>このような状況ですので町会の中でも、校区長会議の中でも、この問題は推進していく流れではありますが、なかなかそこまで踏み切れないのが現状ではないかと思います。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>実際、自主防災組織というような看板を掲げてなくても、今ご意見頂いた中で、もう少し丁寧に把握していくと数的にも増えていくかもしれないし、芦田委員からご意見頂いたように、今後に向けてどのくらい丁寧に組織化していく必要があるのか検討し、活動計画の中でも世代の関係無く取り組む必要なテーマだと思います。</p> <p>今後も上手く連携し、可能であれば数値目標の設定をすると少し見えやすくなるかと思いますが、地域の活動をなんでも数で表すというのも一概にプラスとは言えない部分もありますね。</p> <p>私が関わっている滋賀県で「子ども食堂」というものがあります。</p> <p>隣の地域で「子ども食堂」が始まると周りの地域で爆発的に増える時期と、落ち着く時期と繰り返します。</p> <p>意図的に、かつ計画的に働きかける、町会の日々の活動、社協参画の活動とリンクしていくところが必要かと思います。</p>

<p>芦田委員</p>	<p>おっしゃる通りだと思いますが、自主防災とかまえて組織ですと、ちょっと大変なことになるような気がします。</p> <p>我々の方で考えている防災の対策で、冷蔵庫の中に入れるボックスだけでもスタートさせようかと言う話があり、それをすることによって意識を高め、そこから次の一步を踏み出せる。</p> <p>あれでしたら医療関係でなくても誰かが入った時に災害がなくても解りますので、何か小さいことでもスタートしたら上手くいくかと考え、今回始めようとしています。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>事務局の方、よろしいですか。</p> <p>実際、今の活動は地域の中でスタートしているのですか。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>まず、30年度にやろうと。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>命のバトンと言ってね。冷蔵庫に入れてね。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>ええケースを冷蔵庫に入れて、はい、災害に関係なくとも、もし留守の時に誰かが倒れておっても中に入ってこられたらね。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>医療機関の方とかね。</p> <p>いかがでしょう防災の方で何か。</p>
<p>角田委員</p>	<p>和泉保健所です。</p> <p>私ども保健所の機能として、防災については医療にかかる部分が主となります。</p> <p>大規模災害の時には、いろいろな場所に避難所が開設されるため、自治会単位での組織化ができないこと。</p> <p>また、こういった所で医療を必要とする方々がいらっしやいましたら、その情報</p>

<p>村田副委員長</p>	<p>を市町村で一時的に吸い上げて頂くようなシステム等を使い、それを元に医療機関に繋げることを役割として考えています。</p> <p>ボランティア等、単体で運営されるような避難所はなかなか手の届かない領域となるため、それらの情報を集約させ把握ができるような体制作りをお願いしたいと考えています。</p> <p>はい、ありがとうございます</p> <p>実際、大きな災害発生時には、とある一か所が一生懸命頑張っても統括がうまく機能しないため情報共有ができなかったり、情報が適切に届かないことが必ず現場で起こってきます。</p> <p>ご意見頂いたとおり、何も無い平常時にシステム的な部分を含めて検討することが求められます。</p> <p>この委員会は福祉でまちづくり委員会ですので、行政、防災と上手くリンクしながら地域福祉・コミュニティーの部分とシステム的にリンクさせるように検討することが必要となります。</p> <p>このあたりは民児協さんいかがですか。</p>
<p>一井委員</p>	<p>芦田委員から意見が出ましたし、角田委員からも医療の件で意見がでました。</p> <p>ここで民生委員の活動を少し紹介したいと思います。</p> <p>市から配布のある名簿については、担当する自分の校区の地図に全部名簿を落として、登録していない人もチェックするように地図と一緒に台帳を作り活動をしています。</p> <p>また、民生委員は今年で100周年にあたり、記念事業として、冷蔵庫の中ではなく扉に貼るマグネットの設置を考えております。</p> <p>このマグネットは、裏面に緊急時の連絡先や対応方法、通院している病院、持病等を貼り付け、表面にはメモ書きができるようになっています。</p> <p>安否確認を行う中で、65歳の一人暮らしや70歳以上で二人暮らし等で必要な方がおられたら、民生委員が判断し本人の同意を得るのも含めてマグネットを設置していく活動をしようと考えています。</p>

	<p>また、特に気になっているのが、子どもの貧困も含めて母子家庭においては子どもだけでは対応できない場合も考えられるので、マグネットをつけてはどうかという話も出ております。</p> <p>しかしながら、心配なところは個人情報の問題があり災害時の避難名簿については、民生委員も町会も個人名簿を持っており、どのように共有するべきかこれからの検討課題になっております。</p> <p>民生委員は守秘義務がありますので個人情報にかかわる本人の同意を得る必要があります。</p> <p>このため一軒一軒調査して訪問するという方向で事業を進めたいと思います。</p>
村田副委員長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>具体的に民生委員の活動等を教えていただきました。</p> <p>防災は、お話があればあるほどどこかで偏ってするのではなく、全体で上手く捉えていくことが大事です。</p> <p>行政からの働きかけやシステム作り、医療機関との連携も必要となり、かつ地域で取り組んでいかないとなりません。</p> <p>今後、ますます重要な課題になってくると思いますので、今頂いたご意見を踏まえて、和泉市の「福祉でまちづくり」「福祉から見た防災」、緊急時の対策を更に強化して頂きたいと思います。</p> <p>1回目も皆さんからのご意見が活発に出たということで、今回も少しご意見頂きましたけれども、もし後々、今の意見で何かありましたら改めて時間を取りたいと思います。</p> <p>それでは次に議題②活動計画に移らせていただきます。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>では、議題②「第3次和泉市地域福祉活動計画における平成29年度事業報告について」事務局から報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>和泉市社会福祉協議会地域福祉係 阪本と申します。</p>



本日はよろしくお願ひいたします。

私からは、「議題② 第3次和泉市地域福祉活動計画における平成29年度事業報告について」説明をさせていただきます。

資料3ページをご覧ください。

資料3ページでは、協議の場 平成29年度新規立ち上げ校区について記載しております。

委員の皆様ご存知かと思いますが第3次地域福祉活動計画のご説明を簡単にさせていただきます

和泉市社会福祉協議会では、配布させていただいておりますピンク色の活動計画に沿って事業を進めております。

参考にピンク色の冊子31ページ～33ページをご覧くださいでしょうか。

和泉市社会福祉協議会では4つの目標とそれぞれ3つずつ、計12の施策を設定しております。

また、12の施策のなかに4つの重点施策がございます。

4つの重点施策の中のひとつに、地域の課題を定期的に話しあえる協議の場づくりがございます。

内容の詳細は33ページに記載しておりますので、ご参考頂ければと思います。

33ページ一番下にイメージ図を載せてあります。

前回のまちづくり委員会におきましても、第3次和泉市地域福祉活動計画及び協議の場づくりの進捗状況について、ご説明させて頂いた通りでございます。

資料3ページをご覧ください。

前回の報告の中で和泉市内21小学校区社会福祉協議会におきまして8校区がまだ協議の場を設置していないとご説明させて頂きましたが、その後、校区への働きかけにより、平成29年度本日現在で新たに7校区の協議の場が立ち上がりましたので、資料に基づき説明いたします。

平成29年度に新規で立ち上がりました7校区でございますが、国府、和気、伯太、池上、黒鳥、横山、幸校区でございます。

新規で立ち上がりました7校区において協議されました内容は、テーマの項目に

記載しております。

多くの校区で、各種団体からの活動報告、活動状況及び地域課題について情報共有がされております。

さらに、以前から地域の中では、課題解決に向けた取り組みを実施しようという声は挙がっていたものの、校区の中の各種団体間での情報共有がされていなかった為、実施には至っていなかった課題解決に向けた取り組みも、協議の場が設置されたことにより、取り組みに向けての話し合いを進めたり、他地域に課題解決に向けた取り組みの視察を行なったり、実際に課題解決の為の取り組みが始まった校区もございます。

実際に取り組みが始まった校区につきましては、資料4ページで説明させていただきます。

今日現在、和泉市内21小学校区社会福祉協議会のうち20校区において、協議の場が設置されております。

協議の場未設置校区は残り南松尾はつが野校区となっておりますが、現在の調整段階では、平成30年度はじめあたりで、立ち上げされる予定となっております。

資料4ページでは、さきほど少し説明いたしました協議の場から創出されました新たな取組事例としまして池上校区協議の事例について紹介させていただきたいと思っております。

今年度に協議の場が立ち上がる以前から、池上校区のボランティアの中で、子どもから高齢者までが参加できる地域内の集いの場、住民同士が交流できる場の復活を目的にカフェのような形式のいきいきサロンを開催する計画がされておりました。

しかし、ボランティアだけではカフェサロン実施の為にどのような働きかけをしなければいけないか分からず、実施には至っておりませんでした。

資料黒い大きな矢印下部分をご覧ください。

先ほどのページでも説明しましたが、今年度の7月に池上校区において協議の場が発足されました。

その中で、カフェサロンの立ち上げについて協議され、立ち上げが決定されまし

た。

協議の場で決定されたカフェサロン立ち上げの為の具体的な内容としましては、カフェサロンを開催する為の場所、カフェサロンを開催する日時、カフェサロンで提供するメニュー、利用料金などです。

また、カフェサロンの存在を校区内の地域住民に幅広く周知することも必要でないかということが協議され、協議の場に町会・自治会が参加されていたことから、町会・自治会がカフェサロンのポスター掲示について協力することが決定されました。

ポイントとしましては、一部ボランティア間でのみ情報が共有されていた為、アイデアは挙がっていたものの、立ち上げに至っていなかったカフェサロンですが、地域にある各種団体が参加する協議の場で情報を共有することにより、普段接点のない協議の場の参加者が、協議の場において情報を共有することにより、地域課題解決の為の取り組み、池上校区においてはカフェサロンが立ち上がることとなったと社協では考えております。

その後の動きとしては、第1回協議の場において、カフェサロン立ち上げが決定後、カフェサロン参加者同士はもちろんですが、カフェサロン運営に携わる校区内の各種団体同士の交流にもつながったと報告を受けております。

また、現在カフェサロンの開催場所が校区の老人集会所となっておりますが、集会所の玄関に手すりをつけて欲しいという要望が挙がり、市に働きかけをし、手すりが設置される運びとなりました。

さらに、校区カフェサロンの活動を知った地域住民から、町会・自治会単位でも実施したいという声が挙がり、新たにカフェサロンの立ち上げが検討されるという動きもございます。

協議の場が開催されたことにより地域の思いが形になった事例と考えております。

資料5ページをご覧ください。

資料5ページでは、市社協が協議の場に携わる中で感じております、協議の場共通課題について記載しております。

(1. 取り組みの継続について)

協議の場には、地域の各種団体が参画されていますが、校区によっては毎年各種団体メンバーの入れ替わりがあり、協議の場メンバーも入れ替わることとなります。

その為、今年度に決定した地域課題解決に向けた取り組みを来年度に実行する場合、十分な引継ぎが必要となります。

(2. リーダーについて)

地域活動をすすめる牽引力の強いリーダーがいる場合は、協議の場で話し合った取り組みや活動が活発に進められますが、そのようなリーダーが常に存在するとは限りません。

そのようなリーダーが不在の場合でも、継続してすすめてきた地域課題解決の為の取り組みや活動が停滞しないような体制づくりが必要と考えます。

(3. 「自分たちのまちを良くするため」のさまざまな会議が多い)

市や社協が提案し、地域で行う会議が多いと記載しておりますが、社協が提案する協議の場や市各担当課がそれぞれで住民に参加を呼びかける会議などの内容は同じものが多く、会議出席等で地域のリーダーの負担が多くなっているという声が地域から挙がっております。

以上が社協からの、説明となりますが、説明しました内容について、今後の協議の場について、特に資料5ページの協議の場3つの共通課題について、こんな方法があるのではないかなど、改善点やアドバイスがございましたら、ぜひご意見いただきたいと思えます。

よろしく願いいたします。

村田副委員長

ただいま事務局より議題②について報告がありました。

一つは今年度新たに立ち上がった特徴的な取り組みについて。

また、最後に共通課題として、日々感じられていることについて。

少しアプローチを変えてみる等、ご意見ございましたらどうぞよろしくお願い致します。

園田委員

現実に校区長会でも出ているのですが、最近、校区長の1年交代、2年交代が増えてきています。

私はたまたま4年間やっていて古株になりますが、以前は7年から8年が普通でした。

この3月でも、10人近くが入れ替わるのではないかと聞いています。

校区長1年目というのは流れに乗っているだけです。

社協の校区長も同じだと思います。

協議の場においても、1年目の人が一生懸命立ち上げてくれましたが、年4回の協議の場が年2回で終わる、後半になったらいろいろな会議が詰まって協議ができなくなる。

次の4月には新しい校区長に代わる。

引き継がれた人がまた最初からやる、覚えてもらうのに1年かかるという悪循環になります。

また、先日より校区長会議で年に3回、福祉総務課の方、高齢介護室等がいろいろな説明をしてくださっています。

福祉総務課、民生委員、民児協の説明があった場合、だいたい1時間くらい質問等があります。

4年くらいやっていれば流れが解るが、1年目、2年目の方が増えたら理解するのにどうしても全部聞かないと解らない。

それまでに、いろいろな役職に就いていれば解るが、役職に就いたことのない人が町会長、校区長になると解らず、やっと慣れてきた頃になると交代する。

地域によっていろいろあると思いますが、継続的に行われていないのが問題要素になっていると思います。

村田副委員長

はい、ありがとうございます。

仕事以外の組織を継続させていくことがとても大変で、現状教えて頂いたとおりですね。

学生のサークル活動もそうですが、例えばボランティアサークルを立ち上げます

芦田委員

と言って、最初に勢いよく立ち上げたにかかわっている人は、自分たちの思いがあるから頑張ります。

その次に引き継いだ人たちは、最初に立ち上げた人の思いを知っているから上手く引き継げますが、次の人、またその次の人となると新しいメンバーを入れたりすることにより、継続させてゆくことの大変さが出てきます。

地域の人達とボランティア活動をするときも、仲介役となる教員がある程度道添をする期間が必ず必要で、実際に学生達と活動を共にして感じているところでもあります。

そのような意味で、地域の協議の場だからと言って住民の方たちだけでは、継続性が保たれないのかなとも感じますが、この辺りいかがでしょうか。

一番難しい問題と思っています。

協議の場が設置されていない校区が8校区残っていたうち7校区が設置され、すばらしいなど、残り一校区ももうすぐできると聞いて、全体で会議をするということの大事さが連携の中で一番大事だなと思いました。

これが和泉市の場合は協議の場ということなので、ここに一生懸命になって頂いているというのは良いことだと思います。

ただ、協議の場というのは基本的な感じとして、社協さんからの関わりあい方が中心になっている感じがします。

起こっている問題のベースをしっかりとかかえていくためにも、町会長、各自治会の方がしっかりと協議の場にかかわってくれば土台がきちりできるような気がします。

そこへの認識をしっかりと自治会、子ども会、老人会含めて、このような場で議論を高めて、何か一つの形を作りましょうという目標を定めたら、皆さん自分たちの中で頑張ることになり、それをしっかりとしておけば自治会長や子ども会の会長等の役についている方が異動しても全体が一つの校区として共にまちづくりをしているという意識を持てると思います。

その意識ができていれば人員の交代もできると考えます

また、2番目の課題でありましたように、強いリーダーが必要なことは確かです

が、そのリーダーに頼るばかりではダメです。

生涯学習の場として和泉市民大学ができて今度3期目を募集するところですが、私自身1期生として参加しています。

現在、2期生の方と一緒に活動をおりますが参加者の意識は高く私より若い方でもまちづくりを大きなテーマとして、和泉市の良さをしっかり伝えていこうという意識を持っている方もいらっしゃいます。

このような人達に、いろいろな形で自治会や老人会等にかかわりあいを持ってもらい推進力になってもらう。

その繋ぎとして社協さん、市の公民協働等の方々から地域に日頃関わり合いは無いがこんな人材が居る等、情報を頂き人材を増やしていく。

新しい人材が関わってくると動きも出て状況が変わってくる。

そういった努力を少しずつ行うことにより、継続的にやっていけるのではないかと思います。

自分が参加している意義を感じ取ってもらいながら、一部で変更、交代があっても対応できる流れを作っていく、新たな人材も見つけ出していく。

和泉市民大学や年輪大学等を覗いてみたところ活発な意見がどんどん出ていました。

このような意識の高い人達を、いかに取り込んでいくかがこれから必要だと感じています。

そのためには情報量の一番多いところがしっかりと繋いでいただけたらと思っています。

はい、ありがとうございます。

一つは社協さんへのエールですね。

地域の中に沢山おられる人材・力を上手く活用し、それを継続させるには先ほどもお伝えしたように、どうしても継続的に見る人が居ないとなかなか継続させるのは難しいですね。

1年で交代する役員の方も居られるし、その意味ではきちんと繋いでいける専門機関、専門職の方が担っていく、それが重要だと思います。

村田副委員長

門林委員

それは社協だけでは無く、先ほど申し上げましたように、大学で学生を1年から4年まで見ていると、少し単位が足りない学生が出てきます。

その場合、注意喚起をして呼び水にすると、より熱心に取り組む学生も出てきます。

最後に誰かがつなぎ役として上手く導いていくことが必要ですね。

遅れて申し訳ありません。

本日遅れましたのは、総合福祉会館と北部総合福祉会館で2館合同の会館祭りを開催しております。

今日が初日で、朝から市長と辻林部長もお見えになって挨拶を頂きました。

私も本日、出演する日に当たってしまい遅れました。

申し訳ありません。

総合福祉会館、北部総合福祉会館、ともに活発で、元気にやっております。

年輪大学卒業生による発表、水曜日には年輪大学在学中の方による発表もございます。

ただ、年輪大学在学中は一生懸命やっただいておりましたが、卒業後も在学中と同じように地域でもやって頂けるか、参加意識のある方をどのように自治会等に参加して頂くか、どのように引き出せばいいのかで悩んでいます。

先程、芦田委員も仰っていましたように、自治会、民生委員、いろいろな団体が協議を行うことは前向きで良いと思います。

もう少し、この動きを広げていくための方法がないか探っているところです。

村田副委員長

丁度年度末でいろいろな取り組みがあると思います。

共通課題として3つ上げて頂きました。

医師会の奥村委員いかがでしょう、

3つの課題が出ています。

このような問題はどんな組織にもあると思いますが、住民の方達の活動について客観的に。



<p>奥村委員</p>	<p>2 で出ていたリーダーについて、医師会では医師会長をピラミッドの頂点としてその下に副会長、その下に各班長、その下に理事を置いています。</p> <p>災害があった場合、インフラは被害を受けて使用ができなくなりますので、各班長の所へ理事が集まります。</p> <p>インフラが回復した時点で携帯等で連絡を取り合い集まるようにしています。</p> <p>繰り返しになりますが、頂点を一つ作りその下の組織、またその下の組織とグループで分けするのが一番効率的な動き方と思っています。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>指揮系統をしっかり構築することにより、緊急時に上手く発動すると思います。</p> <p>日々の活動の中で、ピラミッドを作っていく難しさに皆さん悩んでおられると思いますが、地域の中にはリーダーがしっかりと纏めているところもあります。</p> <p>また、構築されたピラミッドが少し緩んできたなど専門職の方が感じる地域には、時間をかけて説明したり、上手く声かけをすることも必要です。</p> <p>以前、担当制が敷けていないという話を少し聞かせて頂いたと思いますが、地域担当の職員はどのように対応されていますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>小学校区単位では担当を決めて活動に関わっておりますが、圏域ごと、包括ごとでは担当分けをしていないのが実情でございます。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>2 1 校区の担当については決まっているということですね。</p> <p>担当の方に上手く繋ぐ役割を担っていただきたいと思います。</p>
<p>芦田委員</p>	<p>よろしいでしょうか。</p> <p>先日、公民協働主催のおしゃべりカフェに参加しました。</p> <p>その中で感じたのは、それぞれの地域を覗いてみますと、地域がどのような動きをしているか見えてきます。</p> <p>包括圏域のような範囲を4か所くらい纏め、動きを見せれば自分達でもやってみようと考えが出るのではないかと考えます。</p>

	<p>それと、年輪大学、年輪大学院では大勢の人達が学んでおります。</p> <p>自分達がこれからどのような形で地域に関わっていくのか等、活発なグループ活動が行われ楽しく参加されております。</p> <p>意識の高い人達が、少しのアドバイスや手法などの知恵を出し合えば問題解決の糸口が見い出せるのではないかと思います。</p> <p>また、和泉市民大学にも沢山の先生方に来ていただき学びの場を提供して頂いております。</p> <p>年輪大学や和泉市民大学で学んだ意識の高い人達にも、積極的に参加して頂ければもっと良くなると率直に感じるところです。</p>
村田副委員長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>ハードルが高かったり、何処をどのように超えればいいのか解らない時に、年輪大学や和泉市民大学に通っておられる意識の高い人達の手も生かしてはどうかというご意見ですね。</p> <p>通っておられる方たちは意識欲の高い方達ですし、その意識を上手く繋げていく必要があると感じます。</p> <p>それぞれ活躍されている立場からのご意見を頂きました。</p> <p>後程、全体を通してご意見を頂けたらと思います。</p> <p>では、次の議題に移ります</p> <p>議題③「平成29年度CSW部会活動報告について」説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>はい、ビオラ和泉いきいきネット相談支援センター 宗像でございます。</p> <p>失礼ですが、着座にてご説明させていただきます。</p> <p>CSW部会からは（１）平成29年度上半期の相談からみえる現状と主な活動について</p> <p>（２）社会的居場所づくりプロジェクトについてのご報告をさせていただきます。</p> <p>まずは、（１）平成29年度上半期の相談からみえる現状と主な活動についてご</p>

説明させていただきます。

資料7ページをご覧ください。

平成29年度、上半期の相談実数は400件でした。

左のグラフが対象者別、右のグラフが相談経路別の内訳になります。

私たちの役割の基本は、困っている方や困っている世帯の課題解決に向けて必要な制度や社会資源に繋いでいくことです。

総合相談ネットワークの充実が第3次地域福祉計画の重点取組のひとつとなっていますが、地域の中で困りごとを抱えている世帯にいち早く気づき、相談につながるネットワークづくりの為、具体的には、地域の方や他の専門機関の方と一緒に相談会を開催したり、CSWの活動紹介や意見交換会を実施したり日々、顔の見える関係作りに取り組んでいます。

昨年度同様、今年度も活動報告の概要版を作成し、私たちの活動をわかりやすく伝える工夫をして地道な関係づくりを続けて参ります。

資料8ページに移ります。上の円グラフをご覧ください。

平成29年度上半期の相談の内、生活困窮状態にあった方の割合を示したものです。

生活困窮というと、一人一人イメージが異なると思いますが、私達はすでに生活に困窮している方だけでなく、例えば、不就労で親の年金に頼って生活している方など、いずれ困窮する可能性がある方を生活困窮予備軍として捉えています。また、社会的孤立状態にある方は高齢者の孤立も含めると23.8%となりました。

社会的孤立状態とはひきこもり、不登校、不就労などで家族としか会話をしない、地域社会との関係が全くない、もしくは、あっても極端に希薄で、他者との接触が殆どない状態として捉えています。

社会的孤立状態の方の生活困窮の可能性をみると、下の円グラフのようになり上のグラフの全相談に占める割合に比べ生活困窮予備軍の割合が高くなっていることがわかります。

ひきこもり状態の20代30代の方のご家族から「経済的に余裕があるわけではない」という声を聞くこともあります。今すぐ生活に困るという状況ではありません

せんが、将来的な大きな不安の一つとなっているようです。

また、地域や関りのある機関の担当者は気になっていても、本人や家族の了承が得られないために関われない、相談に繋がらないといったケースもあります。

こういったことも踏まえると孤立や困窮の割合はもっと高くなると考えられます。

続いて(2)社会的居場所づくりプロジェクトについて説明させていただきます。

日々の活動の中で生活困窮や社会的孤立の課題にもいち早く着目し、具体的な支援として社会的居場所づくりプロジェクトに5年前から取り組んできました。

このプロジェクトでは、人との関わりが苦手な方たちが私たちや桃山学院大学の学生さんと一緒に外出したり、定期的に企画しているイベントなどへの参加を通じて、他人との交流や社会参加のきっかけを見出すサポートをしています。

プロジェクトに参加される方を対象者としていますが、対象者は左下のグラフからわかるように年々増えてきております。

資料9ページへ移ります。

平成28年度第2回福祉でまちづくり委員会において、山口委員から「オアシス」の活用をご提案いただき、8月にたこやきパーティーを実施しました。

粉を溶くところから一緒に行い、対象者同士で自然と交流する姿が見られました。今後の企画も検討中です。

このプロジェクトを継続していく中で私たちが特に重視している点が4つあります。

1つ目が、対象者の自信や意欲の向上を目指した声かけや情報提供です。

2つ目が参加しやすいプログラムと、次のステップを見据えたプログラムの企画です。

今年度は人との交流が自然に多くなるようチーム対抗で行うゲームの企画をしたり、体育館でスポーツも行っています。

3つ目が家族との関係性へのアプローチです。

対象者の中には家族以外の人との関わりが少ないことで、家族との関係が密になりすぎていたり、本人の抱える課題に対する理解が得られないなどで悪循環にな

っていたりすることがあります。

また、居場所づくりプロジェクト以外の活動の場に参加するにあたって身近な家族から後押ししてもらったり、相談にのってもらおうといった協力が必要なこともあります。

理解や協力を得られるよう関係改善のアプローチや情報提供も大切になっていきます。

4つ目が今後の方向性を見立てです。

このプロジェクトに参加できたからといって、すぐにどこにでも行けるわけではありません。

対象者一人一人の状態に合わせた関わりを続けていく中で対象者自身が次のステップを見つけた事例がいくつもあります。

ステップの内容としては、地域でのボランティア活動、作業所、趣味活動、就労、資格取得などです。

このような新たな活動の場への参加に向けて、関係機関などと調整を行ったり、付き添い等の丁寧なつなぎやフォローを行っています。

このプロジェクトへ参加された方は様々な刺激を受け、良い変化が起こってきています。

事例として、仕事をしたいAさんを紹介します。

Aさんは仕事探しの為、両親に連れられ相談窓口を訪れましたが、友人関係のトラブルから長年、人との関わりをさけてきたこともあり、コミュニケーションに課題があると言われました。

その頃のAさんは話しかけても返事が聞こえないくらいの小さな声で話し、漠然と「仕事をしたい、しなければいけない」という状態でした。

C SWが時間をかけ、丁寧にAさんの話をきき、Aさんの状況を一緒に整理していく中で同年代の人と交流したいという思いを引き出すことができました。

初めてイベントに参加された時は人の輪から100mほど離れていて、近づくこともなかったので私たちもどのような支援ができるのか検討を重ねました。

その後はAさんが好きなゲームをきっかけに担当CSWや学生さんとの交流が密になってきました。

“どこにでも自分で出かけていくことができる”というAさんの強みも活かしてよりたくさんの人と交流ができるよう複数の対象者に声をかけてゲームを一緒にすることにしました。

それが今のゲーム大会などの企画につながっています。

周りが決めたことをするのではなく、Aさん自身が人と交流したいという思いをCSWに発信できたことがその後の支援に大きく影響していると考えています。私たちの働きかけや、学生さん、他の対象者さんたちから適度な刺激を受ける関係の中で自分自身と向き合い、Aさん自身が「何をしたいのか 何ができるのか」を前向きに考えるという変化がうまれました。

今は作業所に通い、好きな場所に一人で出かけ、このプロジェクトでのイベントも続けて楽しみに参加されています。

資料10ページに移ります。

社会的居場所作りプロジェクトの対象者は、Aさんのように家族や周りの人からの相談で私たちに繋がった方が多いですが、丁寧に関係を築いていくことで対象者自身も人との関わりを求めていたことに気づき、抱えていた思いを話すきっかけを見出すことができました。

対象者やその家族が思い描く状態に辿り着くためにはいくつもの小さなステップを上っていくことが必要なことが多いですが、このプロジェクトへの参加がまず第一歩となるようアプローチをしていて、実際にプロジェクトへの参加は対象者にとって刺激を受け変化が生まれる場となっています。

ただ、このプロジェクトに参加しているだけで課題が解決していくわけではない為、今後の発展にむけて大きく2点の目標をあげています。

1つ目がCSWとして対象者の想いを受け止め、既存の制度や社会資源だけでは対応しきれないこれらの地道なサポートを行い、安定した人間関係を築いていけるような支援を継続していくことです。

2つ目が地域や行政・他の専門機関と連携して社会的孤立状態にある方の支援のしくみを作っていくということです。

その為に必要なことを3つに整理しました。

1つ目が困っている人に気付く視点 気付きの促しです。

2つ目がニーズ把握の段階での連携です。  
最後に支援の段階での連携です。  
なんらかの支援が必要な方一人一人に応じた自立につながる「居場所」や「活動の場」がまだまだ必要です。  
かといって私たちだけで新たに居場所を作っていくことは難しく、既存の社会資源などを活用しようとする対象者が制度の枠組みで決まっていたり、受け入れはしていただけても対象者の状態に合わなかったりと壁にぶつかります。  
仕事について、社会参加していくということだけを目指すのではなく、日々の生活の中でも見守ってくれる人や身近に相談できる人がいるといった緩やかな人間関係の中で役割を得てステップアップしていける環境が必要だと感じています。  
これまでにサロンなど小地域ネットワーク活動でのボランティア活動につながった方もいらっしゃると思いますが、これからも身近な活動の場の開拓をしていきたいと考えています。  
この後、委員の皆様へ審議していただきたいことは、先の事例紹介のAさんのように次のステップアップとなるような社会資源に繋がることもあれば、既存の制度や社会資源では対応できることが困難な場合もあり、居場所づくりプロジェクトからの次のステップアップとなるような『活動の場』の情報提供や既存の社会資源の活用で一緒にできることはないかについてです。  
説明は以上です。

村田副委員長

議題③の説明が終わりました。  
具体的な事例としてAさんのケースを報告して頂きました。  
皆さんの活動の場において、情報提供、既存資源の活用等、少しご意見ございませんか。  
ひきこもりのお話も出ましたが、町会では気になるところはございませんか。

園田委員

ひきこもりに関しては社協の担当という感覚があります。  
民生委員、社協、町会連合会の関連事項ですが、町会役員の中にはそれらを兼任

<p>村田副委員長</p>	<p>される方も居ます。</p> <p>私の所属している町会では分担制ですが、人推協、校区、社協の3つを兼任される方もいます。</p> <p>担当されている方が、何処に一番注力するかの違いかと思います。</p>
<p>園田委員</p>	<p>兼務の多い町会から、社協への連絡等については。</p> <p>他の組織との連携については、一人で3つを兼務しているから上手くいくのか、分担しているから上手くいくのか、また、他の校区ではどのような形でおこなっているのか疑問に思うところです。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>分担というのは例えば。</p>
<p>園田委員</p>	<p>人推協と社協と自治会・町会連合会の3つを一人でやっているところ、それぞれ分担してやっているところとあります。</p> <p>例えば、分担してやっているところで自分の担当は一生懸命やっても、担当していない部分については関係が無いので関心がないという方もいらっしゃいます。</p> <p>先程も申し上げました通り、1年、2年で仕組みを覚えた頃に交代するため持続性が保たれません。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>情報共有については。</p>
<p>園田委員</p>	<p>基本的な引継ぎや横の繋がり、連携といった部分が不十分ではないかと思えます。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>横の連携、重要ですね。</p> <p>C Sと上手く繋がり、情報の取りこぼしが無いようにしなければなりません。</p>
<p>園田委員</p>	<p>要支援者の台帳についても、民生委員、社協の校区長、自治会長がそれぞれ</p>



村田副委員長	<p>持っています。</p> <p>また、校区長の方で自治会長を兼任していると同じ台帳を2つ持つこととなります。</p> <p>台帳には要支援者の個人情報に記載されており、民生委員の方は個人情報の保護を重視されます。</p> <p>しかし、自治会・町会の人間は個人情報の保護を重視すると活動が出来なくなります。</p> <p>法律がからんできますので。</p>
園田委員	<p>個人情報の保護については法律で厳しく守られております。</p> <p>たまたま私の所では、民生委員との関係構築ができているため、スムーズに運びますが、民生委員の活動が独自で町会・自治会の活動と違うためギャップのある地域が多いのが実情です。</p>
芦田委員	<p>民生委員もいろいろ仕事を持っていますし、忙しいと聞いています。</p>
園田委員	<p>現実に、民生委員の方たちは多忙です。</p> <p>その中で、一つ一つクリアしようと思ったらどうしても民生委員の方の力が必要になります。</p>
村田副委員長	<p>民生児童委員の手帳を拝見したことがあります。年間スケジュールが売れっ子アイドルのように埋まっています。</p>
一井委員	<p>民生委員は連合町会長より推薦を受けて就任しているので、元々の繋がりがありますが、民生委員と町会がもっと良好な関係を築いていく必要があるのは良く理解しております。</p> <p>先程、社協の活動について説明を聞きました。</p> <p>その中で会議が多いとの説明がありましたが、私は逆に会議が大事であると考え</p>

ています。

自分達の「まち」を良くするため真剣に行っている会議ですので、多くてもそれは地元のための会議、地域のための会議です

そのためにも、会議を重ねてもっと深く十分に話し合う必要があると思います。

民生委員は、生活困窮者をCSWへ繋ぐ役割をしていますが、繋いだ以上の深入りをしてはならないとされております。

しかし、実際に困っている方をCSWへ紹介してそれで終わりではなく、民生委員、CSW、社協が互いにコミュニケーションをとりあって情報の共有をすることが大事であると思っています。

互いのコミュニケーションが不足していると、繋いだあとどのようなようになったかが解らず、情報不足となりいろいろなケースに対応できなくなります。

また、園田委員よりご意見頂きました個人名簿の共有については、もっと柔軟に考えるべきと思っております。

民生委員には守秘義務があります。

次にまちづくりの件ですが、医療も充実し、寿命も延びました。

長生きした時に、その地域が夢も希望も無い地域にならないように、夢も希望もある生活できる場所をみんなで考えてみんなで作っていかねばなりません。

その中で、私は大変感心していることがあります。

社協の皆さんは私よりも歳の若い人達ですが、真剣にこの問題に取り組まれております。

これは、とても嬉しいことです。

元気で長生きする地域づくりを我々が一緒に、これからも議論しながら作っていかねばならないと思っています。

村田副委員長

はい、ありがとうございます。

芦田委員

よろしいでしょうか。

先程、CSWから現在の活動についての審議や、意見等頂きたいと出ました。

地域の居場所づくりプロジェクトを継続的に行うため、どのような形で繋げてい

村田副委員長

事務局

くのか。  
CSWがどのような繋がりを持っていて、具体的にどのように関わっているのか。  
一人の方にいろいろな活動をされて前進した。  
実際の活動がこのような場以外では出てこないために見えてきません。  
どうでしょう、何かそのあたりについては。

芦田委員のおっしゃるように、私達の活動を上手く伝えることができていなかった部分があります。  
先程の発表にもありましたように、このまちづくり委員会での報告がきっかけとなりオアシスさんに会場提供させて頂きました。  
また、桃山学院大学の先生とゼミの学生さんの協力をいただいて、立ち上げたプロジェクトですので、活動の場として桃山学院大学を使わせて頂いたり、ご協力頂いてる障がい関係の事業所様に場所を提供して頂き、クリスマス会等開催しました。  
地域の中においては、社会福祉協会で行われている子育てサロンにて読み聞かせボランティアとして参加している対象者の方も居ます。  
CSW個人の地域との繋がりの中や、このプロジェクトを通じてご意見、アドバイスを頂いたところです。  
現在、具体的に考えているのは、アイ・あいロビーさんのように、対象者の方がボランティア登録をして、その活動に繋げていく。  
対象者の中にはまだ難しい方もいらっしゃいますが、CSWもサポートしながら受け皿として、周りの理解を頂きながら活動の幅を少しずつ広げていけるのではないかと考えています。

芦田委員

本日頂いた資料を見ながら、どのようなお手伝いができるのか考えていたところ、自分でもアイ・あいロビーとの関わりを考えていました  
現在ある組織ですし、桃山学院大学とも近い関係でもあります。

村田副委員長

アイ・あいロビーの運営の方、アドバイザーの方達が、全てきっちりやってくれると思いますが、もっと上手く運営していくためにも、話し合いの場を設け、桃山学院大学等、その話し合いの場に参加して頂いてはどうでしょうか。

はい、ありがとうございます。

本日、残念なことに大平委員が欠席されておりますので、後日、報告を頂けるかと思えます

事例としてAさんについて挙げて頂きました。

地域や人となんとか繋がろうと思っけていても、やはり受け皿が必要となります。一人だけでやっていけるのであれば、最初からこのような形で課題を抱えることもありません。

地域社会の中では町会が担っていますし、また、アイ・あいロビーのような形でさまざまな分野においてボランティア活動をされている方との繋がりを作っていく。

人と接するのが苦手な方には、少し工夫して一緒にボランティア活動に参加してもらい繋げていく。

さまざまな可能性があると思えますので、是非進めて頂けたらと思えます。

第3次については、ひとまずよろしいでしょうか。

では次に、第4次の和泉市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定について、事務局の方よりご説明をお願いします。

事務局

はい、福祉総務課、井上です。

着座にて説明させていただきます。

私からは次第5 報告①第4次和泉市地域福祉計画の策定について、ご説明させていただきます。

次年度、平成30年度は、青色の冊子、第3次和泉市地域福祉計画及びピンク色の冊子、和泉市地域福祉活動計画の最終年度であるとともに第4次和泉市地域福祉計画、和泉市地域福祉活動計画の策定年度でもあります。

来年度は、この和泉市福祉でまちづくり委員会と和泉市地域福祉推進協議会において、計画の策定を進めてまいりたいと思います。

計画の策定にあたり本委員会と和泉市地域福祉推進協議会の開催を例年の倍である計6回、和泉市地域福祉推進協議会が年1回を年2回に、和泉市福祉でまちづくり委員会、こちらが年2回を年4回、合計6回で予定しております。

それでは、平成29年12月12日に厚生労働省から示された社会福祉法改正による記載事項の追加等を踏まえて改定された地域福祉計画の策定ガイドラインから現計画であります第3次和泉市地域福祉計画と来年度策定します第4次和泉市地域福祉計画との変更点についてご説明させていただきます。

資料11ページをご覧ください。

大きな変更点が2つありまして、まず1つ目の主な変更点としまして、市町村地域福祉計画に盛り込むべき事項が示されたことです。

計画に盛り込むべき事項として①地域における高齢者の福祉、障がい者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、共通して取り組むべき事項の例として資料12ページ①の(ア)から資料13ページの(タ)の16項目が示され、これまでの地域福祉計画に盛り込まれていなかった就労や住宅確保等といった分野も事項も含まれています。

地域の課題や資源の状況等に応じて、各分野が連携して事業を行うことにより、それぞれの事業の効果、効率性や対象者の生活の質を一層高めることができるよう創意工夫ある取組が期待されています。

2つ目の主な変更点として、包括的な支援体制の整備に関する事項を計画に盛り込むよう示されたことです。

資料11ページにお戻りください。

平成29年度第1回和泉市福祉でまちづくり委員会にて、少し触れさせていただきました「地域共生社会の実現に向けて」に関する事で、①「住民に身近な圏域」において、地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みることができる環境の整備に関する事項、②「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備に関する事項、③多機関の協働

による包括的な相談支援体制の構築に関する事項、以上3つの事項について計画に盛り込むよう示されています。

これら3つの事項についても地域の実情に応じて創意工夫を持って取組を進めるよう言われており、現段階で和泉市が具体的にどのように進めていくのかお示しできるものはありませんが、来年度の本委員会や地域福祉推進協議会において、委員の皆様やオブザーバーの皆様にご意見ご協力を頂きながら和泉市の独自性を出しつつ、具体的にどのように実施していくのか検討してまいりたいと思います。

これまでも、この福祉でまちづくり委員会や地域福祉推進協議会で、委員の皆様やオブザーバーの皆様にご多大な御支援御協力を頂いてまいりましたが、次年度については、より一層重要な年度でございまして、引き続きご協力の程どうぞよろしく申し上げます。

事務局からは以上です。

村田副委員長

はい、ありがとうございます。

第4次については委員会で話し合われたこと、その積み重ねにより次に繋がっていくとの報告でした。

沢山ご意見頂いた中で、第4次計画を作る過程において、福祉をとりまく社会情勢、特に第4次の中には生活困窮であったり、最初の議題でもありました要援護者に対する緊急時の支援等々、社会の変遷とともに必要となってくる、強めていけないとならないというように内容も変わってくるかと思えます。

是非委員の皆さんには、引き続きご検討頂ければと思います。

任期等あると思いますが、来年も委員に残って頂いてお願いしたいと思います。

全ての議題について、一通り終わりましたが、他に事務局から報告等ございますか。

一井委員

すみません、最後によろしいでしょうか。

第4次計画については「わがことまるごとの第4次計画」と言います。

この計画を進めるにあたって私達は、連合町会長も老人会も組織が縦社会であ

<p>門林委員</p>	<p>り、横の繋がりができていないと感じています。</p> <p>もっと強く横の繋がりを構築し、連携をとり情報を共有する。</p> <p>例えば、老人クラブの会議の場や連合町会の集会等に民生委員も参加するよう声をかける。</p> <p>その場に参加するだけでも繋がりになり、その繋がりが強くなっていく、横の繋がりが無いと前に進めなくなると思い一言申し上げました。</p>
<p>村田副委員長</p>	<p>すみません。</p> <p>少し関連して。</p> <p>先日、読売新聞に豊中市の社協の話が載っていました。</p> <p>豊中市社協ではいろいろな団体、いろいろな機関を集めて協議の場を設けたようです。</p> <p>繋がりを作ってもらうため、実際に活動している方の集まりです。</p> <p>このような取り組みを豊中市社協ではかなりオープンにやっています。</p> <p>和泉市は大人し過ぎるので、もっとオープンにやってみてはいかがでしょうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>地域の方の現場から横の繋がりを持ってという声上がるのは、そこまで成熟してきているということで、とても心強く思います。</p> <p>なかなか、それが必要という部分に気付いてもらうまで、かなり時間がかかってしまいます。</p> <p>そこが地域の福祉、福祉で地域を作っていくことの難しさで、そのような意味では、そろそろ外部へ大々的にPRしてもよい時期ではないでしょうか。</p> <p>第4次に積極的地域福祉という形で、打ち出していただければと思います。</p> <p>私は滋賀に居りますので、なかなかこちらへうかがえませんが、ご縁がある地域ですので、是非今後も、積極的に関わっていきたいと思います。</p>
	<p>ありがとうございます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、長時間にわたり地域福祉の課題等についてご議論</p>

頂きありがとうございました。

次回は平成30年6月頃の開催を考えております。

日にちは決定次第、ご案内させていただきますのでよろしくお願い致します。

また、本日貸出しの青色冊子とピンク色冊子の各計画書は、事務局がのちほど回収しますので机においたままでお願いします。

委員の皆さん、大変お疲れ様でした。

以上をもちまして平成29年度第2回和泉市地域福祉でまちづくり委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。